

受付番号	2023-25		
許可番号	大歯医倫 第 111286-0 号		
研究課題名	デンタルエックス線画像を用いた歯槽骨密度検査の信頼性、妥当性の検討		
研究責任者	馬場 俊輔	申請者	寺西 祐輝
研究終了日	2026 年 3 月 31 日		
所属	口腔インプラント学講座	所属	口腔インプラント学講座
職名	主任教授	職名	助教

申請の概要

岡山大学病院歯科・口腔インプラント科部門および共同研究施設を受診し、日常診療にて下顎第一小臼歯部のデンタルエックス線撮影を実施する患者のうち、本研究の参加に同意した全身疾患を有さない患者（各施設 3 名以上）、骨粗鬆症患者（各施設 2 名以上）あるいは顎骨壊死患者（各施設 2 名以上）を対象とする。本研究では、研究対象者の下顎第一小臼歯部のデンタルエックス線撮影を 1 回行う。

検討 1. ボーンライトを用いた歯槽骨密度 (a1-BMD) 測定の検者内一致度ならびに検者間一致度の検討

本検討は、全施設で撮影したデンタルエックス線画像を用いて岡山大学病院の検者 A、B が実施する。1 枚のデンタルエックス線画像データから、ボーンライトを用いて a1-BMD 値を測定する。1 名の検者 A が、2 週間～1 月の間隔において同じデンタルエックス線画像データから 2 回 a1-BMD 値を測定し、その検者内一致度（級内相関係数）を算出する。もう 1 名の検者 B も同じデンタルエックス線画像データから a1-BMD 値を測定し、検者 A が測定した 1 回目の a1-BMD 値との検者間一致度（級内相関係数）を算出する。

検討 2. ボーンライトを用いた a1-BMD 測定のグループ妥当性の検討

各共同研究施設でそれぞれ 1 名の検者を設定し、同様に各施設で撮影したデンタルエックス線画像データから、ボーンライトを用

いて a1-BMD 値を測定する。各検者は、測定方法についての十分なキャリブレーションを受けることとする。各施設の測定結果を岡山大学に収集し、骨代謝疾患を有さない患者群、骨粗鬆症患者群ならびに顎骨壊死患者群の a1-BMD 値の中央値を算出する。そして各群間の中央値に有意な差を認めるかを検討する。